

森圭司著「司法試験、SUPER論文講座、民法I」1997年4月10日刊(27ページ)を読む

難関大学入試、高校入試、中学入試、合格の秘訣

—司法試験予備校の有名講師から学ぼう—

Q：今までに解いたことのない問題に出会ったら、どうすればよいのですか。

A：(1)どんなに勉強しても、本試験では、未知の問題や、見たことのない資料を読み解く問題に遭遇すると、気が転倒します。

(2)そんな時、機械的な記憶に頼ったり、いい加減な問題文の読み方をして、答案を埋めても失敗します。そんな時こそ、まず、平常心を取り戻すべきです。

(3)①最後は、やはり、気力の勝負になります。

②記憶に頼らず、自分自身の「今までに学んだ力」を信じて勝負してほしい。

③そのためには、日々の勉強の中で、真の精神力を養うべきと考えます。

Q：難問に出会ったときは、どのように考え、対処したらいいとお考えですか。

A：(1)まず、自分は、この1年努力を重ね、学校教科書、開倫塾テキスト、参考書、教材など、多くの本を読み、勉強してきた。努力だけは、自分の限界まで挑戦、誰にも負けないくらい実行してきたつもりだ。だから、合格するくらいの知識は持っている。

(2)ところで、今、難問が出ているが、これだけ努力してきた自分にも難しい問題である。すると、ほかの受験生にとっても当然、難しい問題であり、大半の受験生が、窮地に陥っているはずだ。

(3)ここでこの難問を通過しなければ合格はあり得ない。これだけ努力してきたのにである。この「難問」は、自分の合格のための「試練」である。さすがに、トップ校・難関校の試験だけある。

(4)しかし自分は、この1年あれだけ多くの本を読み、問題を解き、他の受験生には、負けないはずだ。その一端から、何か、手掛かり、ヒントはないか。あ、あの項目が近いぞ、というように、何とかクリアーしてほしい。

(5)自分が苦しいときは、他の受験生も苦しいのである。そして、それを突破すれば、自分自身の努力・修行についての自信以外は、何も無いと思う。

(6)受験生は、努力を怠ってはならない。

Q：受験勉強直前はどのような生活をしたらよいのですか。

A：(1)受験勉強中は、受験勉強に専念。一日の限りなく大半を受験科目の勉強にあてる。

(2)「読解力」が不足している受験生は、たとえ10分ずつでもいいから、読解力を身に着けるために「辞書」「新聞」「読書」に慣れ親しむ。

(3)なお、最後に注意すべきは、健康。健康診断を受け、治療すべき病気があれば、どんどん医師の指導を守り、健康管理に励む。十分に勉強し、医師の指導を守り健康管理に励めば、必ず、合格します。

<コメント>

開倫塾創業間もないころ、数年間呂楽校で講師をつとめ、司法試験に合格、弁護士をしながら司法試験予備校で長年活躍、多くの著書を出版したペンネーム森圭司(林俊夫弁護士)からのメッセージです。御参考までに。

2025年2月12日